

農業後継者育成基金事業

令和3年度農高就農促進対策事業

事業主体名 鹿児島県立鶴翔高等学校

1 目的

地方における人口減少により農業に携わる人材が不足してきている。阿久根市も例外ではなく、農業従事者の担い手不足は厳しい状況が続いており、農業が産業としての基盤を脅かしかねない重要な課題である。本校は、令和元年度から阿久根市と包括連携協定を結び、地域で活躍できる人材育成に相互連携で取り組んでおり、本事業と一体化することで、より多くの児童・生徒が農業に対して興味・関心を深め、農業を職業として意識をもつことで、多くの生徒が本校を希望し農業に関する仕事に携わることを目標とする。また、生産から販売、そして加工まで6次産業化への取組や広い視野とグローバルな取組、体験的な学習を通して農業への理解を促すことで、職業としての意識を根付かせ農業関連への就職を増やしていきたい。さらに、上級学校への進学を目標とする生徒の育成も行い、上級学校卒業後は、高度な技術や理論を身につけた先進的な農業の担い手として地元就農につなげていきたい。

2 実施状況

(1) 地域貢献活動（援農）の実施

農家の収穫時期の人手不足は慢性的に起きている。令和2年度からJAいずみの御協力をいただき、長島地区の早春馬鈴薯の収穫支援を行っている。今年度は1日の実施であった。また、5年前から阿久根市農政課、JAいずみ、北薩地域振興局と協働で、阿久根三笠地区の紅甘夏生産農家へ収穫繁忙期に本校生徒が地域貢献活動として約20軒の農家の支援を行っている。地域農家への支援活動を積極的に行い、今後も地域農家の担い手不足を補う活動を行ってきたい。



地域貢献活動（馬鈴薯）

(2) 小学生体験学習の実施

阿久根市大川小学校全校生徒21人が本校で農業体験学習を行った。1年生から6年生までの幅広い学年の体験であったため学年ごとに分け、それぞれの学年に合わせた体験プログラムを準備した。1～2年生は、牛のえさやりや花の寄せ植えの体験、3～4年生は、食品加工でピザづくりの体験等を行った。5～6年生は、箱庭とレンガアーチ橋作りに取り組んだ。箱庭は各自作ったものを持ち帰ってもらった。小学生にとって、高校生と一緒に、普段経験することのない農業体験ができたことは、農業への興味・関心を醸成する貴重な時間となった。



小学生体験学習（アーチ橋づくり）

(3) 地域食材活用（出前講座）

食品技術科では、街の賑わいづくりを演出する取組として鶴翔レストランを毎年行ってきた。今年度も新型コロナの影響で実施できなかったが、校内ではテイクアウト商品の開発等を行った。また、新メニュー開発を目的に地域食材の鶏や魚の調理の仕方、スープやソースの作り方を学び次のレストランに活用できるようにした。



出前講座（鶏のさばき方）

3 今後の課題、取り組み

地域に本校の取組を多くの人に知ってもらうことが課題である。新型コロナの影響を受けながらも地域社会との繋がりを密にして出前講座や体験学習などの取組を行ってきた。今後も地域と一体となって農業後継者の育成に取り組んでいきたい。